

# 北海道文化賞

みず  
水

こし  
越

たけし  
武

これまで50年近く、フリーの写真家として、山岳、森林、氷河といった世界の自然を対象に活動を続けてきた。作品には、地球の生態系に対する慈しみや危機感がテーマとして表現されており、その個展や写真集は全国的に評価が高い。豊かな自然環境を求め、昭和63年に道東（屈斜路湖畔）へ移住した後は、北の自然を舞台とした作品を数多く発表するほか、道内の展覧会への出品や企画協力を行うなど、北海道の芸術振興に大きく寄与している。

## ◎受賞者の主な略歴

- S 33 東京農業大学林学科中退
- S 40 写真家として活動開始
- S 43 二科展入選（この年より4年連続）
- S 46 初個展「穂高」開催（東京都）
- S 52 全国カレンダー展「通商産業大臣賞」、アメリカADR賞  
（翌年に通産省生活産業局長賞、翌々年に工業技術院長賞）
- S 55 フランス国立図書館に作品「HIMALAYA」収蔵
- S 56 プラハ、アムステルダムで個展開催
- S 61 ケルンの写真展に「HIMALAYA」等の作品出展
- S 63 弟子屈町に移住
- H 3 「日本の原生林」日本写真協会年度賞
- H 6 「HIMALAYA」講談社出版文化賞
- H 11 「森林列島」土門拳賞
- H 15 国立トリノ山岳博物館で個展開催
- H 18 個展「大地への想い」開催（国内4都市、～H19）
- H 21 「知床 残された原始」芸術選奨文部科学大臣賞
- H 23 弟子屈町文化賞  
現在もギャラリー等で多数の個展開催

